

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	花園大学
設置者名	学校法人 花園学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	仏教学科	夜・通信	281	0	75	356	13	
	日本史学科	夜・通信			36	317	13	
	日本文学科	夜・通信			30	311	13	
社会福祉学部	社会福祉学科	夜・通信		0	186	467	13	
	臨床心理学科	夜・通信			152	433	13	
	児童福祉学科	夜・通信			154	435	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.hanazono.ac.jp/pdf/about/disclose/2023jitumukeiken.pdf>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	花園大学
設置者名	学校法人 花園学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.hanagaku.jp/pdf/summary/yakuin20230601.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	現株式会社代表取締役会 長兼社長	4年 (2022.4.1 ～2026.3.31)	組織運営体制へのチ ェック機能
非常勤	現株式会社代表取締役 社 長執行役員	4年 (2019.11.27 ～2023.11.26)	組織運営体制へのチ ェック機能
非常勤	現宗教法人代表役員	4年 (2021.7.28 ～2025.7.27)	組織運営体制へのチ ェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	花園大学
設置者名	学校法人 花園学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバスについては、例年1月上旬を締切として前年11月に作成の依頼を通知している。作成にあたっては、「講義概要(シラバス)作成要項」と入力用の「WEB シラバス教員用マニュアル」を配布している。</p> <p>授業の概要、授業計画表、到達目標、成績評価方法や留意事項など、それぞれ詳細に説明し作成依頼をおこない、教員が直接入力し作成している。</p> <p>入力されたものは、教務課にて科目と講義内容の一致、各項目必要事項の漏れが無い、表現が適切かチェックをし、必要に応じ教員に修正、再提出を依頼する。</p> <p>両学部(全学)で同一内容。</p> <p>完成したシラバスは、単位登録開始時期に合わせて、3月下旬頃ホームページに広く公表している。ホームページでは過去5年間分の閲覧を可能としている。</p>	
授業計画書の公表方法	https://cpwh.hanazono.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>到達目標に対する達成度を基に評価方法及び基準(定期試験、小テスト、課題レポート、授業での発表、提出物、授業態度等)をシラバスに明記しており、それに基づいて総合的に評価するようにしている。</p> <p>両学部(全学)で同一内容。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>「成績評価基準」(100点満点において、秀 100～90点=S、優 89～80点=A、良 79～70点=B、可 69～60点=C、不可 59～0点=D、評価不能=K)に基づいて評価したGPA対象授業科目(教職・資格、その他随意科目を除く)のうち、履修登録した科目についてそれぞれの単位数にGP (Grade Point)【S=4、A=3、B=2、C=1、D/K=0】をかけ、その合計ポイントを、それぞれの単位数の総和で割って計算した1単位あたりのGP平均値(Average)を出している。これにより、講義にたいする学生の学習意欲を高め、責任ある履修登録の促進を図り、適切な履修指導をおこなっている。</p> <p>取得単位数という量的な判断に加えて、質的観点からの判断の材料となり、履修指導のほか、成績優秀者、奨学金の受給、退学勧告などの判断材料として利用している。学生は、GPAは半期毎に通知する成績通知書等で確認することができる。履修登録取消制度を設けており、取消期間中に申請することにより科目を取り消すことができる。</p> <p>また、再履修で合格した場合、過去の「不可」の成績は、原則としてGPA計算式に入らない。</p> <p>両学部(全学)で同一内容。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.hanazono.ac.jp/about/grading_system.html</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学の建学の精神は「禅的仏教精神による人格の陶冶」である。その教育の目的は、どのような状況であっても主体的に行動できる、自立性・自律性を涵養することである。それはまた、「己事究明」を基盤とし、専門的知識・技術を身に付けることを通して、自分が素質として本来持っている力を発見することである。さらには、周りにいる人間の多様性を理解した上で、問題・課題の解決につながる思考・判断をすることができ、コミュニケーション能力を活用し、「利他の精神」に基づいて、社会に貢献することができる人材を養成することである。つまり、「自己を知り、他者を受け入れ、社会に貢献する人材を養成する」ことに他ならない。</p> <p>その実現のために、卒業時に身に付けておくべき5つの資質・能力を定め、それらを身に付けることを到達目標とする教育課程を編成する。本学は、所定の期間在籍し、所定の単位を修得したことをもって、教育目標を達成したものとみなし、学士の学位を授与する。</p> <p>卒業に必要となる単位数は全学部で124単位となっており、卒業判定については、4回生の受講登録終了後、前期成績確定後、後期成績確定後の年間3回実施し、連合教授会の議を経て、学長が決定している。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>【全文】 https://www.hanazono.ac.jp/pdf/about/disclose/unv_regulations202006.pdf 【概要】 https://www.hanazono.ac.jp/pdf/about/kyogaku/undergraduate_diploma.pdf</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	花園大学
設置者名	学校法人 花園学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.hanagaku.jp/summary/index.html
収支計算書又は損益計算書	http://www.hanagaku.jp/summary/index.html
財産目録	http://www.hanagaku.jp/summary/index.html
事業報告書	http://www.hanagaku.jp/summary/index.html
監事による監査報告(書)	http://www.hanagaku.jp/summary/index.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称: 花園大学中期ビジョン 2022-2026 対象年度: 2022年度から2026年度)	
公表方法: https://www.hanazono.ac.jp/about/vision_2022.html	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.hanazono.ac.jp/about/evaluation.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.jihee.or.jp/kikanbetsu/2020/33hanazono_university.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.hanazono.ac.jp/education/literature/ ）
（概要） 文学部の教育研究上の目的は、建学の精神に基づき、仏教学・日本史学・日本文学にわたる専門的知識と技術を修得させることである。 それはまた、「己事究明」を基盤とし、仏教学・日本史学・日本文学にわたる専門的知識・技術を身に付けることを通して、自分が素質として本来持っている力を発見することである。さらには、周りにいる人間の多様性を理解した上で、問題・課題の解決につながる思考・判断をすることができ、コミュニケーション能力を活用し、「利他の精神」に基づいて、社会に貢献することができる人材を養成することである。
卒業の認定に関する方針 （公表方法： 【全文】 https://www.hanazono.ac.jp/pdf/about/disclose/unv_regulations202006.pdf 【概要】 https://www.hanazono.ac.jp/pdf/about/kyogaku/undergraduate_diploma.pdf ）
（概要） 文学部の目的を達成するために、卒業時に身に付けておくべき 5 つの資質・能力を定め、所定の期間在籍し、所定の単位を修得したことをもって、教育目標を達成したものとみなし、学士の学位を授与する。 （1） 自立性・自律性・主体性〔DP1〕、（2） 知識・理解〔DP2〕、（3） 思考・判断〔DP3〕、（4） 技能・表現〔DP4〕、（5） 態度・志向〔DP5〕
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： 【全文】 https://www.hanazono.ac.jp/pdf/about/disclose/unv_regulations202006.pdf 【概要】 https://www.hanazono.ac.jp/pdf/about/kyogaku/undergraduate_curriculum.pdf ）
（概要） 文学部は、卒業認定・学位授与に関する方針を到達目標とする教育課程を編成する。基礎教育科目、専門教育科目など必要とされる科目を体系的に編成し、講義・演習・実習などを適切に組み合わせた授業を開講する。教育課程の体系性を示すために、各科目間の関連性や各科目の内容の難易度を表現した番号を付与したナンバリングを行い、カリキュラム・マップを作成するなどして、教育課程の構造を明示する。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法： 【全文】 https://www.hanazono.ac.jp/pdf/about/disclose/unv_regulations202006.pdf 【概要】 https://www.hanazono.ac.jp/pdf/about/kyogaku/undergraduate_admission.pdf ）
（概要） 文学部が卒業認定・学位授与に関する方針に定めた卒業時に身に付けておくべき 5 つの資質・能力（DP1～DP5）を身に付けた人材になるためには、志願する学科で学ぶ目的意識や意欲を持った上で、高等学校までの学修で学んだ知識や、自ら考えて判断する力、さらに、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容等を身に付けて入学してることが求められる。
学部等名 社会福祉学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.hanazono.ac.jp/education/social_welfare/ ）

<p>(概要)</p> <p>社会福祉学部の教育研究上の目的は、建学の精神に基づき、臨床心理学・児童福祉学を含む社会福祉学全般にわたる専門的知識と技術を修得させることである。</p> <p>それはまた、「己事究明」を基盤とし、社会福祉学全般にわたる専門的知識・技術を身に付けることを通して、自分が素質として本来持っている力を発見することである。さらには、周りにいる人間の多様性を理解した上で、問題・課題の解決につながる思考・判断をすることができ、コミュニケーション能力を活用し、「利他の精神」に基づいて、社会に貢献することができる人材を養成することである。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法： 【全文】 https://www.hanazono.ac.jp/pdf/about/disclose/unv_regulations202006.pdf 【概要】 https://www.hanazono.ac.jp/pdf/about/kyogaku/undergraduate_diploma.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>社会福祉学部の目的を達成するために、卒業時に身に付けておくべき5つの資質・能力を定め、所定の期間在籍し、所定の単位を修得したことをもって、教育目標を達成したものとみなし、学士の学位を授与する。</p> <p>(1) 自立性・自律性・主体性〔DP1〕、(2) 知識・理解〔DP2〕、(3) 思考・判断〔DP3〕、(4) 技能・表現〔DP4〕、(5) 態度・志向〔DP5〕</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法： 【全文】 https://www.hanazono.ac.jp/pdf/about/disclose/unv_regulations202006.pdf 【概要】 https://www.hanazono.ac.jp/pdf/about/kyogaku/undergraduate_curriculum.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>社会福祉学部は、卒業認定・学位授与に関する方針を到達目標とする教育課程を編成する。基礎教育科目、専門教育科目など必要とされる科目を体系的に編成し、講義・演習・実習などを適切に組み合わせた授業を開講する。教育課程の体系性を示すために、各科目間の関連性や各科目の内容の難易度を表現した番号を付与したナンバリングを行い、カリキュラム・マップを作成するなどして、教育課程の構造を明示する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法： 【全文】 https://www.hanazono.ac.jp/pdf/about/disclose/unv_regulations202006.pdf 【概要】 https://www.hanazono.ac.jp/pdf/about/kyogaku/undergraduate_admission.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>社会福祉学科が卒業認定・学位授与に関する方針に定めた卒業時に身に付けておくべき5つの資質・能力(DP1～DP5)を身に付けた人材になるためには、社会福祉学科で学ぶ目的意識や意欲を持った上で、高等学校までの学修で学んだ知識や、自ら考えて判断する力、さらに、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容等を身に付けて入学してくることが求められる。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.hanazono.ac.jp/about/organization.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
文学部	—	21人	9人	8人	0人	0人	38人
社会福祉学部	—	13人	5人	10人	0人	0人	28人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		131人					131人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.hanazono.ac.jp/education/teaching_staff.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
FD研修は毎年前期に年度計画を策定し、計画的に実施している。 2022年度は、10月に「学力保障をめざした教育活動における授業外学習のあり方」と題し、研修を実施した。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	160人	125人	78.1%	650人	533人	82.0%	若干名	4人
社会福祉学部	245人	195人	79.6%	970人	843人	86.9%	若干名	8人
合計	405人	320人	79.0%	1620人	1376人	84.9%	若干名	12人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	157人 (100%)	9人 (5.7%)	105人 (66.9%)	43人 (27.4%)
社会福祉学部	229人 (100%)	2人 (0.9%)	170人 (74.2%)	57人 (24.9%)
合計	386人 (100%)	11人 (2.8%)	275人 (71.2%)	100人 (25.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	220人 (100%)	142人 (64.5%)	25人 (11.4%)	53人 (24.1%)	0人 (0%)
社会福祉学部	283人 (100%)	208人 (73.5%)	23人 (8.1%)	52人 (18.4%)	0人 (0%)
合計	503人 (100%)	350人 (69.6%)	48人 (9.5%)	105人 (20.9%)	0人 (0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>シラバスについては、例年1月上旬を締切として前年11月に作成の依頼を通知している。作成にあたっては、「講義概要(シラバス)作成要項」と入力用の「WEB シラバス教員用マニュアル」を配布している。</p> <p>授業の概要、授業計画表、到達目標、成績評価方法や留意事項など、それぞれ詳細に説明し作成依頼をおこない、教員が直接入力し作成している。</p> <p>入力されたものは、教務課にて科目と講義内容の一致、各項目必要事項の漏れが無い、表現が適切かチェックをし、必要に応じ教員に修正、再提出を依頼する。</p> <p>両学部（全学）で同一内容。</p> <p>完成したシラバスは、単位登録開始時期に合わせて、3月下旬頃ホームページに広く公表している。ホームページでは過去5年間分の閲覧を可能としている。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<p>到達目標に対する達成度を基に評価方法及び基準（定期試験、小テスト、課題レポート、授業での発表、提出物、授業態度等）をシラバスに明記しており、それに基づいて総合的に評価するようにしている。</p> <p>文学部では、文学部の目的を達成するために、卒業時に身に付けておくべき5つの資質・能力を定め、所定の期間在籍し、所定の単位を修得したことをもって、教育目標を達成したものとみなし、学士の学位を授与する。</p> <p>また、社会福祉学部では、社会福祉学部の目的を達成するために、卒業時に身に付けておくべき5つの資質・能力を定め、所定の期間在籍し、所定の単位を修得したことをもって、教育目標を達成したものとみなし、学士の学位を授与する。</p> <p>卒業に必要な単位数は全学部で124単位となっており、卒業判定については、4回生の受講登録終了後、前期成績確定後、後期成績確定後の年間3回にそれぞれ担当者による目検で複数回実施し、連合教授会の議を経て、学長が決定している。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	仏教学科	124単位	有・無	48単位
	日本史学科	124単位	有・無	48単位
	日本文学科	124単位	有・無	48単位

社会福祉学部	社会福祉学科	124 単位	有・無	48 単位
	臨床心理学科	124 単位	有・無	48 単位
	児童福祉学科	124 単位	有・無	48 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <https://www.hanazono.ac.jp/about/facilities/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
文学部	仏教学科	826,000円	200,000円	220,000円	教育充実費
	日本史学科	826,000円	200,000円	220,000円	教育充実費
	日本文学科	826,000円	200,000円	220,000円	教育充実費
社会福祉学部	社会福祉学科	829,000円	200,000円	220,000円	教育充実費
	臨床心理学科	829,000円	200,000円	220,000円	教育充実費
	児童福祉学科	829,000円	200,000円	220,000円	教育充実費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入学者に対する取組 日本学生支援機構給付型奨学金採用候補者決定通知を受け取っている入学者に対し、修学支援制度による減免額(入学金、授業料)を予め引いた金額で請求を行っている。 ・ 在学生に対する取組 日本学生支援機構給付型奨学金採用決定者に対し、修学支援制度による減免額(授業料)を予め引いた金額で請求を行っている。また、在学生の学納金納入期限について、給付型奨学金受給有無に関わらず、全学的に後ろ倒しにした。 前期: 4月28日→6月30日、後期: 10月20日→11月30日 ・ 大学独自奨学金の新規設定 2023年度入学生に対し、2023年1月以降に実施した4つの入試において、各入試各学科成績上位者について、学納金(入学金、授業料、教育充実費)を4年間全額免除または半額免除する思い切った施策を開始した。結果全額免除者32名、半額免除者4名が対象となった。
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>進路サポート課にて、1年次・2年次必修の基礎教育科目「学びのナビゲーション」と連携し、授業内に進路に関する内容を盛り込み、入学直後から卒業後の進路を考えさせている。3回生では、「社会へ出る」という意識を高め、しっかりと準備をすることを目的とした就職ガイダンスや就活準備講座を開催し、就職活動本番に備えている。さらに卒業年次には、進路状況調査結果を踏まえ、個別相談を主軸に置きながら、自己分析や面接対策などのバックアップセミナーも実施し、本人が納得できる進路選択支援に取り組んでいる。学内で小規模合同就職説明会も開催し、学生の進路選択の幅を広げ、企業・団体が直接出会う場所づくりも提供している。また、キャリア教育を目的とした「職業体験プログラム」を基礎教育科目として開講し、事前研修、5日以上の職業体験、成果報告などで単位認定を行っている。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>本学では、さまざまな障害のある学生が在学して勉学に励んでいる。(視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・発達障害・精神障害・病弱など) 配慮の必要な学生一人ひとりの状況にあわせて、学生相談支援室を中心に、学内の各部署が連携し授業の配慮体制を整え、障害の有無にかかわらず公平に勉学に励むことが出来るようにしている。学生相談支援室には、臨床心理士の資格を持つカウンセラーが常駐し、学生の様々な相談に対応している。</p>

【支援内容】

- ・入学予定者の事前相談
- ・入学時の学校生活支援、単位登録指導
- ・学習支援（予習、レポート・課題作成、試験対策）
- ・要支援学生の「居場所」としての機能
- ・カウンセリング

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.hanazono.ac.jp/about/disclose/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F126310107591
学校名	花園大学
設置者名	学校法人 花園学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		215人	205人	224人
内 訳	第Ⅰ区分	134人	120人	
	第Ⅱ区分	55人	60人	
	第Ⅲ区分	26人	25人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				224人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	-		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	-		
「警告」の区分に連続して該当	-		
計	16人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	3人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
G P A等が下位4分の1	-		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	29人		
計	34人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。